

黒毛和種育成雌牛でみられた多発性の皮膚粘液腫の1例

伊藤理子^{1)†} 菅野 宏²⁾ 真田慶之助¹⁾ 太田和広¹⁾

1) 秋田県農業共済組合 県南家畜診療所 (〒019-1701 大仙市神宮寺上高野 24-2)

2) 秋田県中央家畜保健衛生所 (〒011-0904 秋田市寺内蛭根 1-15-5)

(2023年4月21日受付・2023年9月15日受理・2023年11月14日公開)

本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/11/76_e313/article-char/ja

要 約

11カ月齢の黒毛和種雌牛において胸垂に直径6 cmの有茎状の腫瘤が発生し、腫瘤の切除を行った。病理組織学的及び免疫組織学的所見に基づき粘液腫と診断した。術後約2カ月で切除部位に腫瘍が再発し、その後1カ月間に右肩部、左右頸部及び下顎に0.5～1 cmの小型の同腫瘍が多発したため、計5カ所の切除を行った。臨床経過、病理組織学的所見から、多発性粘液腫と診断した。術後10カ月時点では切除部位での再発は認められず、新たな腫瘍も発生していない。牛において粘液腫はまれな腫瘍であり、外科的治療に関する報告は少なく、これまで多発した症例の報告はない。皮膚粘液腫が多発した要因について、本症例では精査できていないが、人においては遺伝子異常に起因する疾患があるため、今後も腫瘍の発生について経過観察が必要と考えられる。——キーワード：皮膚粘液腫，多発性，再発。

-----日獣会誌 76, e313～e317 (2023)